

カラシ…コロシ…と下駄の音

知ってる
ようで
知らない

落語家三遊亭円朝の怪談噺

本当に怖いのは幽霊よりも人の欲

文学座
怪談
牡丹燈籠

原作／三遊亭円朝
脚本／大西信行
演出／鶴山 仁



主なキャスト

円朝／志丈ほか…大原康裕
萩原新三郎…越塚 学
お露／おたね…大野香織
お米／お峰ほか…富沢亜古
伴蔵…早坂直家
源次郎…沢田冬樹
お国…山崎美貴
飯島平左衛門ほか…石川 武

主なスタッフ

美術…乗峯雅寛
照明…古宮俊昭
音響…秦 大介
衣裳…前田文字
舞台監督…寺田 修
制作…友谷達之

あらすじ

落語家円朝が高座で披露する怪談噺で幕が上がる。浪人・萩原新三郎に焦がれ死んだ旗本の娘・お露は、後を追った乳母・お米と牡丹燈籠を携え、新三郎と嬉しい逢瀬を重ねるが、2人が幽霊と知った新三郎は家中に死霊除けのお札を張り巡らせる。お露を不憫に思うお米は、新三郎の店子で下男伴蔵に「お札剥かし」

●岡山市民会館

11月24日(水) 7時
25日(木) 12時30分
(26日・28日 休演)

29日(月) 7時
30日(火) 1時

※上演時間 2時間10分(予定)

■西大寺市民劇場例会

●西大寺公民館大ホール
11月26日(金) 6時45分
27日(土) 1時

を頼みこむ。伴蔵は幽霊を恐れながらも妻・お峰に焚きつけられ、百両との引き換えを条件にお札を剥がすと、牡丹燈籠は嬉し気に高窓に吸い込まれて行った。一方、お露の父・飯島平左衛門の妾・お国は、隣に住む情夫・源次郎をそののかし、平左衛門を殺害、有り金を奪い逃走する。人の命と引き換えに金を手にする欲に目が眩んだこの4人は、落ちのびた先で凶らすも絡み合い、そつとあるような愛憎劇で人の業をあぶりだす…。

生まれ変わった斬新な舞台!

中国小説「剪灯(せんとう)新話」の中の「牡丹灯籠」が伝えられ、明治時代になって三遊亭円朝が「怪談牡丹灯籠」と題してつくりかえた。ことに、カランコロンと下駄の音がして、妖艶な美女の亡霊が恋しい男のところに現れる場面は名高い。

1974年、その円朝の怪談断を文学座が、大西信行脚本、成井市郎演出で劇化した。杉村春子と北村和夫の夫婦コンビの公演が今も語り継がれる文学座の財産演目のひとつで、同じ文学座の「女の一生」や「華岡青洲の妻」などと並ぶ「和物の魅力」を堪能できる舞台となった。

岡山市民劇場では1974年、杉村春子、高橋悦史で例会として迎えた。特に杉村春子が、夫をそそのかすように仕向ける妻と、幽霊の乳母二役を早変わりして演じ分ける場面が、すごい

と話題になった。

2018年、「怪談牡丹灯籠」は鴉山仁演出により再構築され、全く新しい「ネオ和物」となつて生まれ変わった。テンポの良さはそのままだ、話がいくつも複雑に絡み合い、人間の業の深さをあぶり出して、表の顔と裏の顔、人の心の光と闇を照らし出す。舞台美術は、3月例会「しあわせの雨傘」も手がけた乗峯雅寛。時代劇なのにガラス工芸を意識した美しく斬新な舞台となつている。

今回欲深い夫婦を演じるのは、久しぶりに迎える早坂直家さんと富沢亜古さん。配役を一新した舞台は楽しみである。(谷村典子)

◆さすが文学座の財産演目! 脚本・演出・舞台装置、それぞれにいろいろ工夫されていてとても面白かったです。富沢亜古さんの乳母お米と伴蔵の妻お峰の早変わり、大原康裕さんの円朝・志

“魅力に迫る会”

女優 富沢亜古さん
を迎えます。ぜひ参加を

◇10月13日(水)
昼の部: 1時半~
夜の部: 7時~

◇天神山文化プラザ

感想文 暗闇の中の演出など、 ドキドキ感がいっぱい! 不思議さ、おかしさ、言い得て妙



活は貧しくとも何が大切か? 「牡丹灯籠」はそれを教えてくれます。怖いですが、怪談をどんなふうにも演じるのか興味津々でしたが、恐ろしくも楽しいお芝居に感じました。照明や音によ

◆今回の深い夫婦を演じるのは、久しぶりに迎える早坂直家さんと富沢亜古さん。配役を一新した舞台は楽しみである。(谷村典子)

◆人間の知恵を超える不思議さ、おかしさ、言い得て妙。演出の鴉山仁氏の力量が如実に湧き出て感動のラストでした。(川崎市民劇場なかはら、町田演劇鑑賞会ほかの感想文より)

か、夜トイレで思い出したら嫌だなとか心配してしました。しかし、とても良かった。怖いというよりお話に引き込まれました。少し暗くて静かな景色を美しく感じました。

◆伴蔵・お峰の掛け合いなども面白く、大変良かったです。「お化けだから怖い」とか「人間関係が複雑で分かりにくいかも…」などの事前の心配は一気に吹き飛び、お芝居に引き込まれました。何よりも新しく入った方が「良かったわ」と満足気に話してくれた笑顔に、お誘いして良かったと、心から思いました。

◆死んでしまった幽霊より生きている人間の方がより恐ろしい。役者さん一人ひとりの個性が表れている良い芝居でした。

◆人間の知恵を超える不思議さ、おかしさ、言い得て妙。演出の鴉山仁氏の力量が如実に湧き出て感動のラストでした。

(川崎市民劇場なかはら、町田演劇鑑賞会ほかの感想文より)